

赤松克麿 あかつき かつまろ 評論家、政治家。明治二十七年十一月四日山口縣生れ、附初二十二年十一月十三日没（一九四一九年）。大正八年東京帝國大學法科大學政治學科卒。在學中新人會を創設。十年日本労働總同盟、翌年日本共産黨に參加。十五年社會民衆黨、附初七年日本國家社會黨を結成。十七年衆議院議員となり、日本革新黨を組織、十六年大政翼賛會企画司制度部長。マルクス主義を以て國家主義を以て思想を遊歴。妻赤松明子は師吉野作造の長女、與謝野寛は叔父に喜ぶ。

著書『轉換期の日本社會運動』（大正十五年一月一日厚生圖書店）、『自由主義とは何か』（合著・東洋經濟新報社編、附初十一年五月二十六日東京洋經濟新報社）、『新修日本精神讀本』（合著、附初十二年九月二十五日大阪・朝日新聞社）、『日本社會運動史』（附初二十四年十一月十日通信教育振興會）、『日本社會運動史』（附初二十七年一月十五日岩波書店「岩波新書」）、『勞使關係の在り方』（附初十九年八月十五日元々社「民族教養新書」）、『東洋と青年』（附初二十九年十一月二十五日池田書店「今日の教養書選」）等。